

県 広 報

とやま

TOYAMA PREFECTURAL REPORT

特集/自立と共生の社会をめざして
～とやま障害者自立共生プラン～

国際線 INTERNA



見て楽しめる空の玄関口

富山空港

レポーター：酒井 瞳さん（富山大学）
（表紙の人）



東側に面した展望デッキは、立山連峰の眺望ポイント



滑走路が見渡せる有料待合室



やっぱり美味しい富山の水



迫力の大画面で富山を紹介

神通川の河川敷を利用した滑走路を持つ全国でも珍しい空港として昭和三十八年に開港した富山空港は、今年年間百二十万人を超える人々に利用されています。昭和五十九年のジェット化と同時に国内線ビルが、平成五年のソール便就航に伴い国際線ビルが建設され、現在、七つの国内路線と二つの国際路線（今春新たに大連便が開設予定）が就航。今回は、そんな空の玄関口の「建物」を中心にレポートします。

さて、二階の出発ロビーで一際目立っているのが大型映像装置です。これは、富山の自然や文化、産業などを九面マルチ画面の映像で紹介するもので、県外の人々に富山を大いにアピールしています。もちろん県民の皆さんも楽しめると思えますよ。また、その隣にあるのが「とやまのおいしい水コーナー」。一口飲んでその美味しさを改めて実感した私です。一階の「富山市コーナー」は、富山のくすりや地場産品の展示スペース。ちょっとした待ち時間に立ち寄りやすい所です。また、ゆったりと搭乗を待ちたい人のために、滑走路や綺麗な山並みが一望できる有料待合室も用意されています。



ひととやま

いろんな感性にふれ、成長していきたい。

野上彌生子賞受賞 若栗ひとみさん

「何度も何度も読み返して、やっとの思いで書き上げたものが評価されたことは、とても嬉しいですね」と喜びを表すのは、第十回野上彌生子賞読書感想文全国コンクールで、三千点を超える応募作品の中から最優秀賞にあたる野上彌生子賞を受賞した富山中部高校二年の若栗ひとみさん。

と経験の深さが読み取れました。また、自分のかりそめの肉体を宇宙に同化させるほどの感受性は、全く私にはないものでした。それでいて説得力があり、すんなりと私の心をつかんだんです。

若栗さんが読書を楽しむようになったのは、ここ一、二年のこと。「以前は、本の内容が理解できないことがよくありました。でも、今では随分意味がくみ取れるようになってきました。少しは人生経験を積んだからでしょうか」とにっこり。また、自分の知らない世界に入っていくことが、読書の最大の魅力、という若栗さん。「私の場合、例えば活字で表現された景色は、実際に目で見える景色よりも心に残るんです。自由な発想が印象をいっそう深くするんでしょうね。それから、読書を通じていろんな感性にふれることで、私自身が成長できればいいな、と思います。」

随筆「花」を読んで、若栗さんは何を感ず、何を得たのでしょうか。その答は、感想文の結びに現れる次の一文に集約されています。「私もまちがいがなく、宇宙の中にいるのだ。野上さんが教えてくれた花束を抱いて、毎日を歩いていこう。私の歩幅で着実に。」

3 CONTENTS

とやま遊学感	表紙
富山空港	1
ひとアズとやま	1
野上彌生子賞受賞	1
若栗ひとみさん	1
とやま遊学感	2
富山県イメージアップ賞授賞式	2
クローズアップ	2
特集	4
自立と共生の社会をめざして	4
とやま障害者自立共生プラン	4
PINUPPTOYAMA	8
写真/松田 勉（富山県写真家協会会員）	8
詩/若栗清子（富山現代詩人会会員）	8
ふるさとみてる記（井口村）	10
① 寄るまい会	10
② 陶造形作家 藤井一範さん	12
③ ゆくゆうランド花椿	12
エッセイ/寛田知義	12
（富山県立大学名誉教授）	12
（京都大学名誉教授）	12
トピックス	13
富山県イメージディレクター懇談会	13
県からのお知らせ	14
暮らしのアドバイス	14
暮らしのアドバイス	16
とやま水紀行	16
早月川の清流（上市町）	16

知事・アツプ

プロスポーツ界の

「富山の顔」に感謝状

富山県イメージアップ賞授賞式

活動を通して富山県のイメージアップに貢献した個人や団体に対して感謝状を贈る「富山県イメージアップ賞授賞式」が、一月二十三日、東京都内のホテルで行われました。今回受賞したのは、ヤクルトスワローズの田畑一也投手、横浜ベイスターズの進藤達哉内野手、そしてJリーグ鹿島アントラーズの柳沢敦選手の名。授賞式は、「いきいき富山パフォーラム」の冒頭で行われ、中沖知事から各々にトロフィーと賞状、副賞が手渡されると三百名余りの出席者から大きな拍手が沸き起こりました。県民に大きな夢と希望を与える三人のさらなる活躍が期待されます。

三人が語る 富山への思い

授賞式に先立って設けられた知事との懇談の場において、三人に富山への思いや抱負を語っていただきました。(司会：圓山国体局長)

●久しぶりに富山に帰られていかがですか。

柳沢 激励会などが重なってあまりゆっくりでできませんでしたが、やはり富山に帰るとホッとします。また、成人式では友達と話ができて嬉しかったですね。

田畑 毎年一度は昔の野球部の仲間と集まっているんです。みんなお酒が強いので、セーブするのに大変ですよ。(笑)。



▲知事とがっちり握手。(左から田畑選手、知事、進藤選手、柳沢選手)

進藤 今年、自分がプロになってから初めて野球部の同窓会があり、みんなで昔話に花を咲かせました。特に、当時とても怖かった伊東監督に好きなことを言えたのは楽しかったですね。(笑)。

●富山にはどんな印象がありますか。



▲田畑一也選手

田畑 天候のせいかな、富山はいつも曇っているというイメージがあるんです。でも、ほとんどプロスポーツ選手がいなかった昔と違って、今は進藤君や世界の柳沢君もいて、とても心強いですね。

柳沢 出身地を聞かれて富山と答えると、「富山ってどこ？」とよく聞き返されます。印象は少し薄いような気がしますが、僕にとっては、帰るとホッとする場所ですね。

進藤 場所がわかってもええなというのには確かにあります。また、冬場は寒さで背中が丸くなっているというイメージがあるので、もっとみんなで明るくはつらつとした街



▲知事となごやかに懇談

にしていけばいいと思います。

●イメージアップ受賞の感想は。

田畑 正直言ってこんな賞があるとは知りませんでした。もらったからには来年も富山県のイメージアップになるよう頑張りたいですね。



▲進藤達哉選手

進藤 イメージアップを意識してプレーしているわけではありませんが、今回の受賞を機に富山県をアピールして、来年またもらいに来ますよ。(笑)。

柳沢 僕自身、富山のイメージアップに貢献できたか不安です。でも、これから

●来シーズンの抱負を一言。

田畑 第一の目標はもちろん優勝です。自分自身は一昨年、昨年と良すぎましたので、それに劣らない成績があげられるよう頑張ります。また、絶対ベ이스タースには負けたくないぞ、という気持ちでいきたいですね。(笑)。

進藤 昨年二位になって、ファンの声援がこんなにもあったかいいものなかと実感しました。ヤクルトの本拠地の神宮でさえ、横浜側の応援の方が大きかったですよ。来年もこんな雰囲気の中でゲームをやりたいですね。そして、今度は僕らがファンに優勝の報告をする番です。

柳沢 今年がワールドカップという大きなイベントがあります。サッカーをやる人すべての夢であるその舞台でプレーすることは、自分にとって



▲柳沢 敦選手

大きなプラスになると思っています。監督のやろうとしているサッカーを身につけて、ぜひチャンスをもにしたいですね。



▲イメージアップ賞のトロフィーを手にする授賞者

プロフィール

田畑一也投手 (ヤクルトスワローズ)

高岡市出身。高岡第一高校時代から県内屈指の投手としてならず。高校卒業後、昭和六十二年から三年間ノンプロ(北陸銀行)で活躍したが、ケガで引退し家業を手伝う。その後、二年のブランクを経て平成三年、ダイエーの入団テストを受け、その翌年のドラフトでダイエーに入団する。平成七年、ヤクルトに移籍してから才能が開花。昨シーズンは十五勝をあげ、リーグ優勝・日本一に大いに貢献した。また、古田捕手とのコンビで「最優秀バッテリー賞」を獲得。今やリーグを代表する右腕である。

さらに、県内向けCMへの出演など本県の施策に協力するほか、少年野球教室での指導など本県スポーツの振興にも貢献している。



進藤達哉内野手 (横浜ベイスターズ)



高岡市出身。高岡商業高校時代は好攻、強打の遊撃手として夏の甲子園に二度出場(昭和六〇年、六十二年)。高校卒業後は、大洋(現横浜)に入団し、三年目から本格的に一軍で活躍。昨シーズンはサードに定着し、再三の好プレーとシユアなバッティングでチームの二位躍進に大きく貢献した。特に、その素晴らしい守りは折り紙つきで、昨年は守備のベストナインともいわれる「ゴールドグラブ賞」を受賞。名実ともにリーグを代表する内野手である。

また、県内向けCMへの出演など本県の施策に協力するほか、少年野球教室での指導などを通じて、本県スポーツの振興にも貢献している。

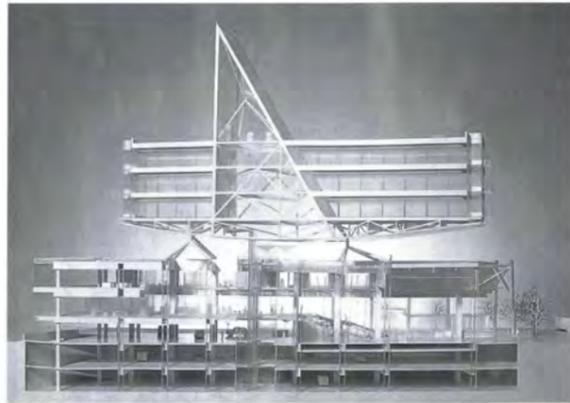
柳沢 敦選手 (鹿島アントラーズFW)

小杉町出身。富山第一高校時代から全日本ユースのメンバーとして国際大会等で活躍。三年のときにはJリーガー以外で唯一、五輪代表候補に選ばれた。平成八年、高校卒業と同時に鹿島アントラーズFCに入団。Jリーグ新人タイ記録となる四試合連続ゴールを決め、早くも存在をアピールした。昨シーズンは、8ゴールをマークするなど前期優勝に貢献し、「新人王」のビッグタイトル獲得。天皇杯決勝でも2ゴールにからむ活躍で、優勝の原動力となった。また、今年開かれるフランスワールドカップ日本代表候補にも選ばれた。



とやま障害者自立共生プランにおける数値目標

区分	8年度末	17年度末
●介護サービスの充実		
1 在宅サービス (1) ホームヘルパー (2) デイサービスセンター (3) ショートステイ	常勤換算49人 2か所 専用29人	常勤換算200人 9か所 専用60人
2 施設サービス (1) 身体障害者療護施設 (2) 精神薄弱者更生施設	140人 860人	260人 1,100人
●地域における自立の支援		
1 障害児の地域療育体制の整備 (1) 心身障害児等通園事業	0か所	2か所
2 精神障害者の社会復帰の促進 (1) 精神障害者生活訓練施設 (2) 精神障害者社会適応訓練事業 (3) 精神科デイケア施設	0か所 31人 6か所	4か所 50人 12か所
3 障害児・者の支援 (1) 障害児の療育拠点事業 (2) 精神障害者地域生活支援事業 (3) 市町村障害者生活支援事業	2か所 0か所 0か所	8か所 8か所 8か所
4 障害者社会参加促進事業	0か所	9か所
●住まい、働く場、活動の場の確保		
1 グループホーム、福祉ホーム	120人	275人
2 授産施設・福祉工場	496人	765人



▲総合福祉会館（仮称）完成模型

各施策分野の連携を図り、効果的な施策の展開に努めます。特に、平成十一年度に開館予定の総合福祉開館（仮称）は、各種関連団体の拠点とするほか、福祉カレッジや福祉機器展示室等を設置するなど、総合的な福祉拠点として整備します。また、主要な項目については数値目標を定め（別表）、プランの計画的な推進に努めるとともに、障害者団体や有識者



▲障害のある人とない人がともに参加した「つくしのコンサート'97」

プランの推進にあたって

みんなで築くあたたかい福祉社会

すべての県民がしあわせに生きる福祉社会を築いていくためには、県や市町村の施策のみならず、県民や企業が積極的にかかわっていくことが望まれます。障害者と地域の人々やボランティア等

との交流・協力などを通じ、障害のある人となない人が共に生きるというプランの基本理念が深く浸透するよう推進に努めます。このため、「富山県民福祉推進会議」を設立し、県民全体による福祉の推進を図るとともに、「ボランティア活動推進富山県民会議」による県民のボランティア活動の普及の推進を支援していきます。

各地域で総合的に展開します。

障害者施策をきめ細かく展開するためには、住民により身近な市町村における各分野の施策の相互連携や総合的な推進

が必要です。このため県では、各市町村の障害者計画の策定支援に努めます。また、施策によっては広域的に対応せざるをえない場合もあるため、障害保健福祉圏域を設定し、構成市町村のほか関係行政機関も含めて協議・検討を行うなど、力を合わせた総合的な施策の展開を支援します。

総合的・計画的に推進します。

以下、プランに沿って、七つの分野別施策の概要を紹介します。

特集/ 自立と共生の社会をめざして

~とやま障害者自立共生プラン~

▶チエアスキーの国際競技大会で活躍する山口裕二さん



障害のある人もない人も地域のなかで共に生きる社会、それは二十一世紀に求められる福祉社会の姿です。

県ではいま、平成八年九月に制定した「富山県民福祉条例」に基づき、福祉のまちづくりを総合的に推進しています。障害者に関する施策についても、昨年十一月、この条例に基づく個別計画として「とやま障害者自立共生プラン」を策定しました。これは、本県の障害者施策の基本となる計画であり、また、市町村が障害者計画を策定する際の基本となるもので、平成十七年度までを計画期間としています。

県では、今後、このプランに基づき、障害のある人とない人が共に生きる福祉社会の実現に向け、多岐にわたる施策を展開することとしています。

プランの基本理念

このプランは、「リハビリテーション」と「ノーマライゼーション」の二つを基本理念としています。

リハビリテーション

ここでいうリハビリテーションとは、障害者の身体的、精神的、社会的な適応能力回復のための機能訓練にとどまらず、障害者のライフステージの全ての段階において全人的復権に寄与し、障害者の自立と参加をめざす障害者施策の理念です。

ノーマライゼーション

ノーマライゼーションとは、障害者を特別視するのではなく、一般社会のなかで普通の生活が送れるような条件を整えるべきであり、障害者もそうでない人も共に生きる社会こそノーマルであるという考えです。北欧から広まったこの考えは障害者福祉の最も重要な理念であり、国際連合による「障害者の権利宣言」の底流をなしています。

1 啓発広報

周囲の人々が障害者に対して持つ意識上の障壁（心の壁）を取り除き、「共生」の視点に立った障害者観を定着させることや、障害者との交流・ふれあいをより促進することが必要です。

〈取組内容〉

- ・様々な広報媒体による県民へのノーマライゼーション理念の普及
- ・市町村障害者計画の策定支援
- ・特殊教育諸学校との交流活動等による児童生徒と障害児との相互理解の促進
- ・高校生等がボランティア活動を体験できる機会の充実
- ・障害者によるボランティア活動の充実



2 教育・育成

障害の種類・程度、能力・適正などに応じたきめ細かな教育を行うことが重要です。また、障害児の育成については、家庭を基盤としながらも地域での療育支援のための施策の充実が求められています。

〈取組内容〉

- ・保護者の悩みや不安に応じられるよう特殊教育に関する相談機能を充実
- ・特殊教育諸学校における障害の特性や時代の変化に対応した教育内容の充実



- ・保健所、児童相談所、障害児施設、医療機関等の連携強化による乳幼児期からの健康診査、訪問指導、育児相談の充実
- ・施設の有する人材・設備などの機能の活用による在宅療育等に関する相談・指導体制の充実
- ・障害者の生涯学習の支援

3 雇用・就業

障害者の就業は、社会経済活動への参加や自己実現といった面からも重要です。このため、障害の種類や程度に応じた職業能力の開発のほか、保健、医療、福祉、教育の連携を強化し、相談・指導体制を充実することが必要です。

〈取組内容〉

- ・障害者雇用率未達成企業に対する指導強化
- ・障害者に対するきめ細かな職業相談による適正な職業選択と職場定着の促進
- ・身体障害者雇用納付金制度に基づく障害特性に応じた作業施設の設置や作業環境整備への支援
- ・知的障害者への職場適応訓練の実施による職域拡大の推進
- ・精神障害者への社会適性訓練などによる能力と適性に応じた就労の促進



▲コンピュータを使用した作業訓練

自立共生社会の実現

4 保健・医療

心身障害はライフステージの各時期に発生するため、母子保健や成人保健をはじめとした施策の充実が必要です。また、医療やリハビリテーションの充実、障害者の自立と社会参加を促進するために不可欠です。さらに、社会環境の複雑化に伴い心の健康づくりが急務となっています。

〈取組内容〉

- ・母子医療センターの充実と、同センターを拠点とした周産期救急医療システムの整備
- ・「ねたきり・痴呆予防県民アクションプログラム」による自らの健康づくりの普及啓発
- ・難病患者の在宅療養への支援
- ・生活の質（QOL）の向上を図れるような地域リハビリテーション体制の整備
- ・「こころの健康プラン」の策定と、それに基づく心の健康づくりの推進

▼富山県心の健康センター



5 福祉

家庭の介護力が低下している今日、障害者の地域における生活環境の改善を図るためには、在宅介護を支援する施策の充実が必要です。また、社会福祉士などの専門的な職員の確保や資質の向上も求められています。

〈取組内容〉

- ・在宅の重度心身障害者に対するホームヘルパー（訪問介護員）の大幅な増員と、サービスの一層の充実
- ・知的及び精神障害者グループホームの設置促進
- ・身体及び知的障害者デイサービス（日帰り介護）センターの整備支援
- ・精神障害者社会復帰モデル施設「ゆりの木の里」を中心とした精神障害者施設福祉の推進
- ・富山県福祉カレッジなどにおけるホームヘルパーなどの養成・研修体制の充実



▲「ゆりの木の里」完成予想図

※知的障害者等が一定の経済的負担を負って共同で生活し、世話人が日常生活の援助を行う形態

6 生活環境

障害者の自立と自由な活動のためには、生活関連施設や住宅のバリアフリー化が不可欠です。また、高度情報化が進展するなか、障害者に対して情報も迅速に提供できる体制づくりが必要です。

〈取組内容〉

- ・県民福祉条例施行規則による生活関連施設の整備基準の周知と実効性の確保
- ・住宅のバリアフリー化促進のための施策の充実
- ・新築するすべての公的住宅のバリアフリー化など、障害者等に配慮した公的住宅の整備推進
- ・障害者等が利用しやすい歩行空間（スロープ等の整備）の確保と低床スロープ付きバス等の導入支援
- ・県総合福祉会館（仮称）における福祉情報システムの構築による情報提供機能の整備



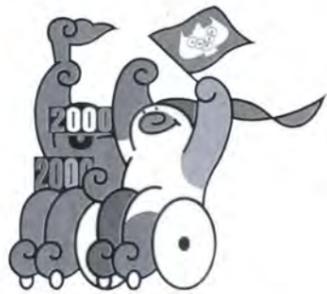
低床スロープ付きバス▶

7 スポーツ・文化等

障害者スポーツは、リハビリテーションの一環としてのみならず自己の可能性の追求や仲間づくり、生活の質（QOL）の向上などの面からも捉えていく必要があります。また、文化活動を通じて生み出される幅広い交流は、ノーマライゼーション理念の浸透の契機ともなります。

〈取組内容〉

- ・スポーツに関する情報提供や用具の貸与、県身体障害者体育大会の開催など、スポーツに親しむ機会の確保
- ・平成十二年の全国身体障害者スポーツ大会「きらりんびっく富山」に向けた身体障害者スポーツの振興など各種事業の展開
- ・障害者に対する文化情報の提供と、文化活動の場の整備
- ・障害者団体等による芸術作品展の開催など、自主的な文化活動に対する支援の充実



雪は波

無言の白の反復が

山の斜面を撫でつづけています

あれからたくさんの時が流れ

私はとてもうまくなりました

顔の表面で笑うこと

涙を流さず泣くこと

でも心の内側は

まっさらの雪原が広がっています

だから

行間を読んで下さい なんて

つまらない小細工はよしにします

この白い紙面全部

夕ぐれの透明な炎におおわれていて

文字のひとつひとつが焼き印となって

素直な声で叫んでいるのですから

どうぞ

この手紙が途中で死んだりしませんように

小鳥のようにまっすぐ

あなたの心に飛んでいきますように

ふたつと
ふたつと
ふたつと
記

井口村

人口 / 1,376人
面積 / 11.50km²
(平成10年1月1日現在)

〔井口村の概要〕
水源の森百選に選ばれたブナ原生林で有名な赤祖父山一その中腹には、春になると一面に黄色い花を咲かせる珍しい福寿草の自生地がある。
三月二十一、二十二日には、恒例の「いのくち椿まつり」が行われ、県内外から大勢の椿愛好者が訪れる。



集い笑って、 元気な地域づくり

寄ろまい会



▲ドライバーに配る交通安全マスクを製作中

川上中地区の住民が健康で楽しく過ごせるようにと、様々な活動を行っているのが「寄ろまい会」だ。

「会の名前は、皆に『寄ろまいけ(集まろう)』と声をかける意味で付けられたんですよ」と語るのは、会長の小沢俊二さん。平成六年七月に発足した同会では、老人会やヘルスポランテニア、食生活改善推進部会などと連携して健康・福祉活動を企画。昨年は、夏休みのラジオ体操やバットゴルフ大会を開催したほか、宅老所訪問や小・中学生と高齢者の交流事業などを行った。なかでも年四回実施している宅老所訪問は、毎回異なるアトラクションが参加者に人気。「かつて南砺地方で盆踊りとして踊られていた『千代無加礼節』を披露した時は、お年寄りの皆さんの方が詳しく、反対に教えてもらったくらいなんですよ」と小沢さんは微笑む。そんな寄ろまい会の活動の成果か、この地区では今のところ寝たきりのお年寄りが一人もいないという。

「皆が声をかけあい、集まることは、もともと連帯感の強いこの地域の人々の絆をいっそう深めましたね」と語る小沢さん。寄ろまい会は、これからも心温まる活動で住民の明るい笑い声を街中に広げ続けることだろう。



▲小沢俊二さん

芸術は爆発 地で行く芸術家

陶造形作家 藤井一範さん

陶芸に爆発のアイデアを用い、独創的な作品を発表しているのが藤井一範さんだ。

「粘土が柔らかいうちに、爆竹や電気雷管、ダイナマイトなどをしかけ、爆発させるんですよ」と語る藤井さん。その作品は、風船のように膨らんでい



▲藤井一範さん

たり、ミルクラウンのようにね返ったりと、陶芸とは思えないような表情をしている。「爆発する位置や粘土の柔らかさに微妙に左右されるため、どんな作品ができるかは予測できないんです」と藤井さん。当然、同じ作品は二つと出来ない。

藤井さんが、このアイデアを思いついたのは、人と違うことをやりたいと試行錯誤していた大学三年生の時だった。「実家の寺を継ぐため通っていた僧侶の学校の授業がつまらなくて居眠りしていた時にひらめいたのです。その夜のうちに大学に忍び込んで実験してみました」。手応えを感じた藤井さんは、その後、爆発技法を駆使して多彩な作品を製作。東京や京都で個展を開催したほか、昨年の朝日現代クラフト展優秀賞を受賞するなど数多くの展覧会で入賞を果たしている。



▲爆発技法を駆使した作品「黙示'97」

▲製作に没頭する藤井さん

藤井さんの作品は、現在富山市中央通り「ほくぎんアートプロムナード」に展示中。興味のある方は、実際にこの不思議な造形を見てほしい。何を感じるだろうか。

くつろぎたい、 椿の里の温泉

ゆくゆうランド・花椿

平成八年、赤祖父湖畔にオープンした体験交流センター「ゆくゆうランド・花椿」が村内外の人気を集めている。

「昨年末で入湯者が十万人を超えたんですよ、その九割が村外からのお客さんなんです」と語るのは、井口村の古野喜久男産業建設課長。同センターは、都市と山村の交流施設として建設され、温泉のほか、七十畳の大休憩室や研修室、食堂などがある。県西部の旧家に多い建築様式「あずま建ち」で、漆塗りの木材と白壁の落ちついたたたずまい。「室内にも木がふんだんに使われているんですよ」と古野さん。温泉の泉質は、鉄分とカルシウムが多く、慢性皮膚病や婦人病に効能があるとか。「アトピーに良いという噂が口コミで広まり、熱心に通われる方もいらつしやいますね」と古野さんは胸を張る。

また、赤祖父湖周辺には、椿公園やバットゴルフ場、テニスコートなどが整備されているほか、赤祖父山への散策コースもあり、ゆったりと自然を満喫することができる。同センターでは、それらを利用し再度入場する場合、無料の再入場券を発行しているというから、この春のレジャーに訪れて、のんびりしてみたいかがだろう。



▲古野喜久男さん



▲躍りを披露する会のメンバー

21世紀を拓く提案続々!

第13回イメージディレクター懇談会



県外で活躍中の本県ゆかりの方々による「イメージディレクター懇談会」が、1月23日、都内のホテルにおいて行われました。

今回は、県イメージディレクターのうち、長澤忠徳さん(デザイナー)、木崎さと子さん(作家)、山田允夫さん(NHK会友)、滝田洋二郎さん(映画監督)の四名が出席し、中沖知事らと懇談しました。以下、イメージアップ方策に関する提言の一部を紹介します。

長沢忠徳さん

前回は提案した「12歳を祝う日」の設置についてご検討いただいておりますが、その布石として、ぜひ富山県には、日本一子どもを大切にす



る県として「こども立県宣言」をしてもらいたいですね。その証として、例えば子どもだけで基金をつくり運営する「富山県こども未来財団」を設立したり、全国の子

木崎さと子さん

「とやまの方言を考える会」が発足することを聞き、とても嬉しく思いました。富山の方言をきちんと保存して

いくことは、それが表現している感情や価値観をも保存することです。今後、そのような視点で取り組みを進めてほしいですね。

また、近年インターネットがますます普及していますが、インターネットの面白い点は、富山に興味がある人への情報提供手段というよりも、他の情報にアクセスしていた人が偶然富山の情報にアクセスするということ

滝田洋二郎さん

どんなに富山がいい所だと言っても、あまり効果が期待できません。各世帯にパソコンを配ったことで話題の山田村を例にとると、村人全員が使いこなせるようになるわけではなく、そこには必ず人間の喜悲劇があるはず

です。私もそんな観点から、「これこそ富山だ」という映画をつくりたいという気持ちが湧いてきましたね。



山田允夫さん

「200X年 県民が燃えるプログラム」事業では、『21世紀のたたき台』と銘打って県民にプログラム案を提示していますが、この姿勢は素晴らしいと思います。

提案のなかでは、1999年の12月31日に行われる『200X年冬の火祭り』が、老いも若きもみんなで大いに盛り上がるウィーンの大晦日の夜を連想させる楽しいイベントです。このように、

県民をあげて21世紀へのスタートを切ることは大きく、このイベントが起爆剤になって新しいアイデアがどんどん出てくるのではないのでしょうか。



ESSAY

若者と会う

富山県立大学名誉教授
京都大学名誉教授

笈田知義

年末・年始は京都で過ごした。繁華街は人で溢れていた。夕暮れの河原町通りはまだ若者のなかに中・高年者を見ることができたが、夜の木屋町通りは学生風の若者で、祇園界隈は中年者の往来で賑わっていた。「街の夕暮れは若者が多く、中・高年者が少ないね」と京の悪童に話したら、「先生、七十歳を超えたら夕方五時までに、六十歳を超えたら七時までに、五十歳を超えたら九時までに帰宅ですよ。勿論、例外はありますが。それに近頃の学生は帰宅しなからいのです」と。都会は繁華街に限らず、年齢層で時間と場所が住み分けられている感じがした。

年齢による生活の仕方が以前からあった。それでも、昔は異年齢間の交流ができる場所と機会が多かった。いまは子ども時代から少子化もあり学校でも地域社会でも異年齢間の交流が少ないとされる。大学でも、「近頃の一年生は何を考えているのかわからない」と、二・三年前に同様にいわれた三・四年生がその断絶を話す。交流はサークル活動だけだが、サークル運営がむずかしいという。ある年の大学一年生ゼミで、「原則として、毎日一度か週一回以上を家族揃って食事することになっていく人は」と尋ねたら、七名のゼミ学生のうち唯一人が拳手した。生活時間がちがうのに無理してまで、共通の話題がない、家族でもいやな話やいやな顔を見て食事することは、などであった。大学はそれでも中・高年の教員と若い学生に共通の機会と場所もあって話し合いがあった。例えば放課後の廊下の長椅子に寝そべった学生から、「先生、いま暇しているから、少し話し相手になってよ」から始まった。



年齢層での住み分けは老人には寂しいが、若者には気楽かもしれない。数年前、病院に併設した素敵な「老人マンション」を見学した先輩が、「施設・設備は申し分ないが、老人だけというのが」と入居を辞退した。これは老人が積極的に若者との交流を求めるといふのではなく、みんなが近くにいてのが人間生活だと思っただけである。でも、若者は老人が近くにいると重苦

しいという。それは老人が押しつけがましく話をする人が多いからだという。京都の話で富山の若者にしたら、「年末は総曲輪通りや中央通りが若者で溢れていましたよ。中・高年者も随分見ましたよ。夜でなく午後でしたが。ただ、若者の状況は多様で、中・高年者の状況はスタイルも同じようでしたが。一般的に中・高年者と若者の交流は若者が多忙で高年者が比較的暇だったら、高年者が聞き上手になって、いろいろなところに行ったらいいのですよ。」といわれてしまった。

県からの お知らせ

募券集

県政バス教室参加者募集

5月上旬から県政バス教室が始まります。
県政の動きや富山の良さを自分の目で見て、体験して、感想をお聞かせください。お一人でも、グループ・団体でも参加できます。また、親子で参加していただく親子バスもあります。

※参加費は無料。ただし、入館料等は参加者負担となります。
(昼食持参)

詳しくは、3月下旬から県庁窓口、各地方県民相談室で配りする「運行案内」をご覧のうえ、往復はがきでお申込みください。

- 富山地区 県庁広報課
〒930-8501 富山市新総曲輪1-7
☎0764-31-3131
- 高岡地区 高岡地方県民相談室
〒933-0806 高岡市赤祖父2-11
☎0766-26-8400
- 魚津地区 魚津地方県民相談室
〒937-0863 魚津市新宿10-7
☎0765-22-9100
- 砺波地区 砺波地方県民相談室
〒939-1386 砺波市幸町1-7
☎0763-32-8100

「富山県日本画家連盟展」開催

結成以来、多くの作家を輩出してきた富山県日本画家連盟の50年の歩みを、物故会員・現役会員の作品約120点を通して振り返ります。

- 開催期間 3月5日(木)～3月29日(日)
- 開館時間 午前9時～午後6時
- 会場 富山県民会館美術館
- 観覧料 一般200円 生徒児童100円
- 問合せ 富山県民会館 ☎0764-32-3111

中央植物園

「私の植物画展」開催

- 一般から広く募集した植物画の展示を行います。
- 日時 3月6日(金)～3月29日(日) 午前9時～午後5時
- 場所 富山県中央植物園サンライストホール
- ※入園料は必要
- 問合せ 富山県中央植物園 ☎0764-66-4187

みなさんの相談窓口

- 県政について
県民相談室 富山市新総曲輪1-7 (県庁内)
☎(0764)31-3131 (県民相談電話)
FAX 44-3300 (県政課ファックス)
- 高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211 (総合庁舎内)
☎(0766)21-9411(代)
- 魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7 (総合庁舎内)
☎(0765)24-5311(代)
- 砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7 (総合庁舎内)
☎(0763)33-5151(代)

●物価ダイヤル
物価に関する苦情や相談があればお気軽にお電話ください。
☎(0120)16-7400 (県庁県民生活課内)

●消費生活について
消費生活センター
富山市湊入船町6-7 サンフォルテ内
〈一般相談は〉 ☎(0764)32-9233
〈金融相談は〉 ☎(0764)33-3252

消費生活センター高岡支所
高岡市本丸町7-1 本丸会館内 ☎(0766)25-2777

●交通事故については
富山県交通事故相談所東別館1階
☎(0764)31-4111 内4400

●サンフォルテ電話相談
あなたの生き方、家族や職場の悩みごとの相談は
☎(0764)32-6611

●相談110番
家庭問題・悪質商法など、どんな相談にも応じます。
☎(0764)42-0110

●シルバー110番
高齢者や家族の心配ごと、悩みごとに富山県高齢者総合相談センター☎(0764)41-4110

●よい子の電話相談
子育てに関して心配や悩みにお答えします。
☎(0764)33-4150 (県庁生涯学習室内)

県からのホットニュース

- テレビ広報
■チューリップテレビ 毎週日曜日 PM5:15～5:30 「ふるさとトーク」
- 富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00～9:30 「112万人のひろばークイズ/フォーカス・イン」
- 北日本放送 毎週日曜日 AM11:00～11:30 「こんにちわ富山県です」

- 3/1 暮らしのアドバイザー
～消費生活センターの仕事～
- 3/8 とやま障害者自立共生プラン(手話放送)
- 3/15 我がまちふるさと自慢 ～婦中町～
- 3/22 生涯学習(字幕放送)
- 3/29 平成10年度県予算
- 北日本放送 毎週土曜日 AM9:30～9:45
県教育委員会 小さな手 大きな目「あしたの家族」

- ラジオ放送
■FMとやま「ふれあいホットライン」
県内各地からホットな話題をおとします。
毎週月～金曜日 AM9:50～9:55
- 新聞広報「県からのお知らせ」
■北日本、富山、読売、北陸中日、朝日、毎日
毎月第2、最終土曜日

平成10年 4月 街頭献血日程

日	曜日	献血場所	時間
11	土	富山アピタ前	10:00～16:30
19	日	黒部ショッピング	10:00～16:00
24	金	庄川町役場前	12:30～16:00
29	水	コスモタウンジャスコ砺波店前	10:00～16:00
		アル・プラザ小杉	10:00～16:00

※都合により変更する場合がありますので、当日の新聞・テレビの街頭献血案内等でご確認ください。
●マリエとやま6階の献血ルームでは、月曜日を除く毎日(年末年始、マリエ休館日を除く)献血を受け付けています。
受付時間 全血献血 10:00～12:30 14:00～18:00
成分献血 10:00～12:00 14:00～17:30
●マリエ献血ルーム(☎0764-45-4500)
血液センター(☎0764-51-5555)

青少年国際交流事業参加青年募集

総務庁が実施する青少年国際交流事業への参加者を次のとおり募集します。

- 青年海外派遣(対象20歳～30歳)
訪問国 ブラジル、ドミニカ、ドイツ等のうちの1か国
期間 8月～9月の約20日間
- 世界青年の船(対象20歳～29歳)
訪問国 ソロモン、トンガ、エクアドル、メキシコ
期間 平成11年1月～3月の約60日間
- 東南アジア青年の船(対象18歳～30歳)
訪問国 東南アジア7か国
期間 9月～11月の約60日間

応募先 市役所または町村役場の青少年施策担当課
締切り 4月6日(月)

問合せ 県庁女性青少年課 ☎0764-44-3138

お知らせ

富山県刊行物センターを ご利用ください。

「富山県刊行物センター」では、県が発行する刊行物を販売しています。県内の美しい自然を紹介した本や、県のプランなど約4百種余りのほか、富山に関する民間図書も多数取りそろえています。皆さんどうぞご利用ください。

- 場所 富山県民会館1階
- 開館時間 午前9時～午後6時30分
- 問合せ 富山県刊行物センター
☎0764-32-3111 (内)100

造形活動展 「97年の活動のなかから」開催

富山県子どもみらい館では、昨年3月から今年2月までに実施した造形活動プログラムの数々を、子どもたちの作

改口発

運転免許証の返納について

昨年改正された道路交通法のうち、○運転免許の返納、○最高速度違反等が行われた場合の使用者に対する指示・使用期限、○免許の欠格期間の延長、などが4月1日から施行されます。

このうち、運転免許の返納とは、自らの申請で、▼許可を受けている運転免許のすべてを返納する▼二種と一種の運転免許を受けている人が、二種免許だけを返納する▼上位の大型免許を取り消して、下位の普通免許を受け(ただし、普通免許を取り消して、自動二輪免許を受けることは不可)などを行うことができる制度です。

問合せ 富山県警察本部運転免許課
☎0764-41-2211(代) (内)631-231
または、最寄りの警察署交通課

確定申告は早めじー!

毎年、確定申告の期限間近になると税務署の窓口が大変

品とともに紹介します。ぜひご来場ください。

- 開催期間 3月21日(土)～4月19日(日)
午前9時30分～午後5時
毎週火曜日および3月23日、25日は休館
- 場所 富山県子どもみらい館(太閤山ランド内)
- 参加費 入場料は無料。ただし制作コーナーでは制作費(100円～200円)必要
- 問合せ 富山県子どもみらい館
☎0766-56-9000

県立近代美術館 「〈線〉を見る―収蔵作品から」開催

県立近代美術館の収蔵作品を用い、そこに表現された「線」に焦点を当て、難解に思われがちな現代の美術について分かりやすく紹介します。

今回は、3つの章からなる8つのコーナーを設け、平面に描かれた線だけでなく立体作品に見られる線の表現も取り上げます。

- 開催期間 3月22日(日)まで(月曜日は休館)
- 午前9時30分～午後5時
- 観覧料 一般200円 高大生160円 小中学生100円
- 休館日 月曜日
- 問合せ 県立近代美術館 ☎0764-21-7111

「マンダラ ―チベットマンダラの世界」開催

立山博物館がこれまで収集してきた十数点のチベットマンダラを、今回、未発表のものも含めて展示します。人間が究極的に考え抜いた精神世界をご覧ください。

- 開催期間 3月31日(火)まで
- 場所 立山博物館展示館
- 観覧料 無料
- 休館日 月曜日
- 問合せ 立山博物館 ☎0764-81-1216

混雑します。確定申告はなるべく自分で記入し、早めに申告を済ませましょう。郵送による提出も可能です。

- 所得税、贈与税、住民税、個人事業税の申告期限は、「3月16日」です。
 - 所得税の確定申告が必要な人は、
①事業収入・不動産収入などがあり、これらの所得が所得控除の合計額を超える人
②サラリーマンで次のような人
・給与所得が2千万円を超える人
・給与所得や退職所得以外の所得の合計額が20万円を超える人
・給与を2か所以上からもらった人
 - 贈与税の申告が必要な人は、贈与を受けた財産額が60万円を超える人などです。
 - 住民税、個人事業税については、所得税の確定申告所を税務署に提出すれば、市町村、県への申告は不要です。
 - 消費税の申告期限は、「3月31日」です。
 - 消費税の申告が必要な人は、
・平成7年分の課税売上高が3千万円を超える個人事業者
・消費税課税事業者の選択をした個人事業者などです。
- 問合せ 最寄りの税務署または県税事務所

UV化粧品の効果

Q 日焼け防止がうたい文句のUV化粧品の効果について教えてください。

A UV化粧品は、「紫外線をカットする」商品と「日焼け後ケアする」商品に分けることができます。

紫外線をカットする商品は「紫外線吸収剤」などを含んでおり、日焼けに関係の深い紫外線B波をカットするものや、しみ・そばかすに関係の深いA波をもカットするものがあります。このうち、紫外線B波の防御効果については、SPF (sun protection factor) という数字で表示されているので参考にしてください。

例えば、何も塗らなかつた時、二〇分で日焼けしたとすると、SPF10と表示されている化粧品を塗った時にはその一〇倍の二〇分間まで日焼けしないといわれるということなので、日常の紫外線対策にはSPF10程度で十分といえます。

また、日焼け後ケアする商品には、一般的な化粧品の他に「美白効果がある」、「しみ・そばかすを防ぐ」と銘打って店頭に並んでいる「医薬部外品」がありますが、これらには色素の沈着を抑制すると言われるビタミンCなどが配合されています。さらに、最近のファンデーションには紫外線を散乱させ、A波、B波ともに防止する働きがあるものも登場しているので利用するときはご注意ください。

このように、日焼け防止に関するいろいろな商品が私たちの身近に届いてはいるのですが、過信は禁物。やはり、帽子をかぶる、日傘をさすなどして紫外線にあたらないように注意することが大切です。

紫外線による人体への悪影響については、単に日焼けによる皮膚の老化だけでなく、皮膚ガンや白内障などの原因にもなると考えられています。それを防止するためにも、日頃から日焼け防止対策を練っておきましょう。

相談は、県消費生活センター、電話0764(32)9233、高岡支所、電話0766(25)2777

暮らしのスタイル
アドバイザー



とやま水紀行

躍動する清冽な雪解け水

早月川の清流（上市町）

早月川は、全長約二十七キロメートル、平均勾配八・三パーセントの日本屈指の急流河川である。剣岳の万年雪に源を発する白萩川と、大日岳からの立山川、小又川が剣岳への登山口として知られる上市町馬場島で合流し、早月川と名前を変える。

冷たく澄んだ水が、あたかも滝のごとく流れ落ちる馬場島付近。川原に転がる巨石は、その流れの激しさを物語る。かつて石のうえに菊の花が咲いていたことに由来する菊石をはじめ、白筋岩、舟石、覚石など、名前を持った巨石も多い。また、周辺にはブナ、ミズナラ、ナナカマドなど豊かな植物が見られるほか、春から夏にかけては多種多様な山菜が芽を出す。そして何よりも、川面に躍る清冽な雪解け水と、その背後にそびえる剣岳とが織りなす景観は見事である。

早月川の古名は「延槻川」。大伴家持は万葉集の中で「立山の雪し来らしも延槻の河の渡り瀬澄浸すも」と、雪解けで水量を増した早月川の光景を詠んでいる。かつては大雨ごとに氾濫を繰り返してきた早月川だが、今日、その豊かで清らかな水は、岩魚の養殖や灌漑用水、工業用水などに幅広く利用され、人々の生活を潤している。

編集後記

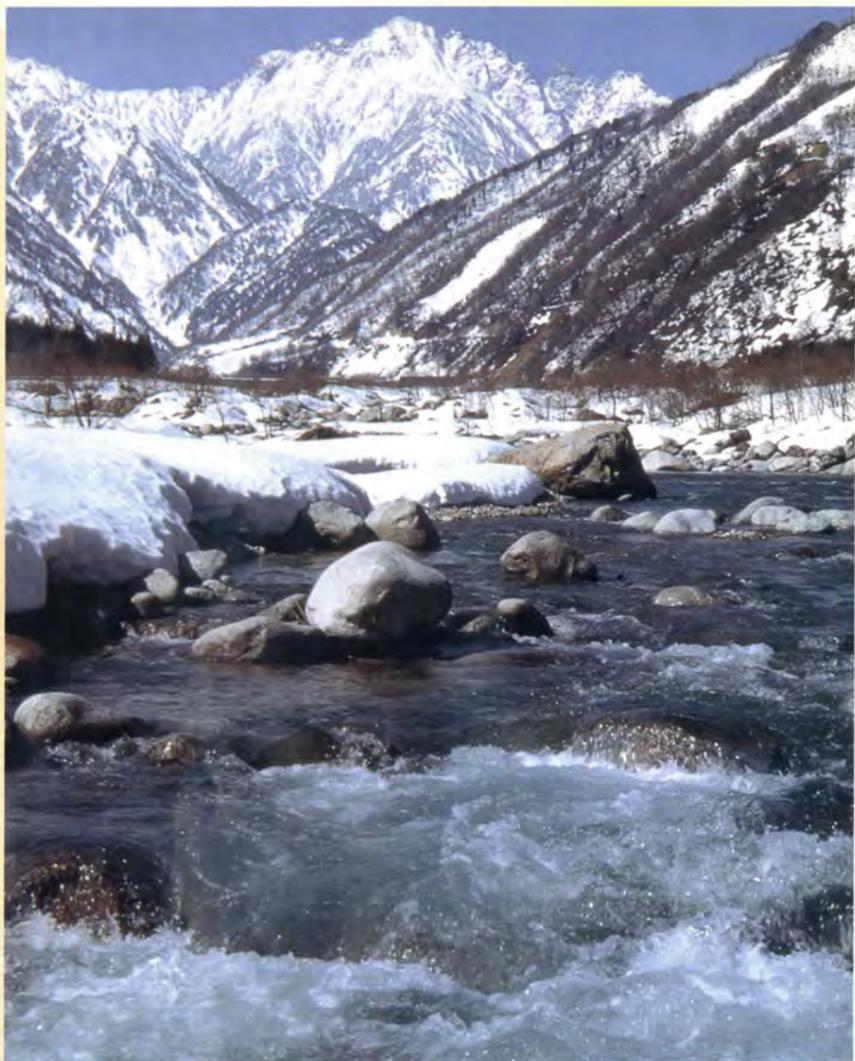
★野上彌生子賞を受賞した若栗さんの読書感想文を読んだ。分かりやすく、かつ巧みな文体に舌を巻いた。学生時代の私はといえば、「主人公は偉いと思います。僕も見習いたいと思います」などという陳腐な感想文に終始していたように思う。今回、活字で若栗さんを紹介するにあたり、普段にも増して推敲を繰り返したのには言うまでもない。(M・K)

★三月三日は雛祭り。幼いときに読んだお話の中に「お雛様は人が寝静まった真夜中、実はみんな楽しく唄ったり踊ったりしている。でも人の気配があると、すぐにやめて、素知らぬ顔して澄ましている。」という一節があった。皆さんも真夜中、気づかれないようお雛様のいる部屋をそーっとのぞいてみてください。ひよっとしたら唄や踊りに夢中になっていないお雛様の姿が見られるかもしれませんよ。(M・I)

★「みてある記」、藤井さんの「爆発」、芸術は、全国のマスコミで紹介されたこともあり、知っていた人も多いのでは？実は藤井さん自身も爆発予定時間を知らせるなど積極的にPRしていたということ。芸術家の世界も目立ってなんぼというところがあるのだろうか。ところで、藤井さんは昭和四十四年生まれで、私と同じ年。そのたくましさ、落ちつきなど、見習うところの多い今回の取材だった。(Y・I)

今月号で掲載したPIN UP TOYAMAの写真を抽選で5名の方にワイド六ツ切(25×18センチ)でプレゼントします。希望される方は、官製ハガキで下記の様式でお申し込みください。平成10年4月24日消印有効です。

富山県広報課 写真プレゼント 3月号係あて	9308501
氏名	年齢
住所	
電話	
本誌を読んだ感想	



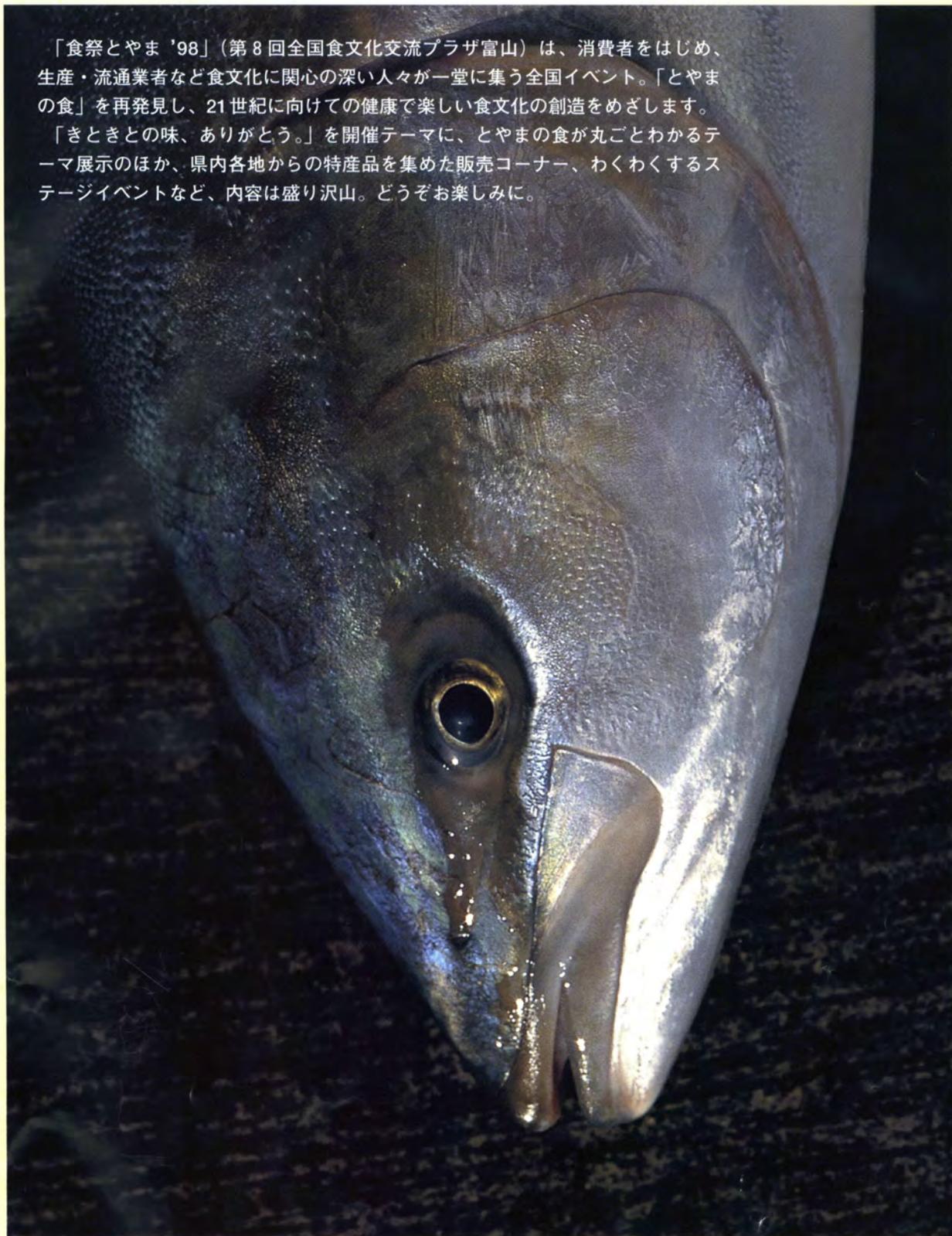
きときとの味、ありがとう。

食祭とやま'98 今秋開催！

「食祭とやま'98」(第8回全国食文化交流プラザ富山)は、消費者をはじめ、生産・流通業者など食文化に関心の深い人々が一堂に集う全国イベント。「とやまの食」を再発見し、21世紀に向けての健康で楽しい食文化の創造をめざします。

「きときとの味、ありがとう。」を開催テーマに、とやまの食が丸ごとわかるテーマ展示のほか、県内各地からの特産品を集めた販売コーナー、わくわくするステージイベントなど、内容は盛り沢山。どうぞお楽しみに。

自然を超える味なんて、どこにもない。



撮影 風間耕司



▲食祭とやま'98 マスコットマーク

会期 平成10年10月8日(木)～12日(月)

場所 富山産業展示館(テクノホール)ほか

問合せ 〒930-0006 富山市新総曲輪1-7 県庁生産流通課内
全国食文化交流プラザ富山県実行委員会

☎0764(44)3271

ホームページアドレス <http://www.pref.toyama.jp/sections/1613/syokusai/>